



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

新型コロナウイルスの感染防止のため、  
9月12日の観察会は中止しました。

新型コロナの緊急事態宣言発令中のため、公園管理センターからイベント開催はできるだけ控えるようにとの連絡があり、定例観察会は中止しました。自然保護協会の「コロナ禍における自然観察会の手引き（ガイドライン）」に、「緊急事態宣言が出されている地域では観察会は中止しましょう。」とあることから、今後第6波の感染拡大があるかどうか分かりませんが、**緊急事態宣言が発令されたら、この観察会は中止**にしたいと思います。（大雨、洪水、暴風の気象警報の発令時はこれまでも中止の扱いでした。）

ここ1年以内に参加した人にはメールあるいは電話で中止を連絡しましたが、それ以外の参加者が来るといけないので、集合時間に現地に行って待機し、その後、一人でいつもの観察コースを回ってきました。

## フィールドの状況紹介 日時 2021年9月12日(日) 9:30~11:00(曇り)

賑やかだったクマゼミの声がツクツクボウシに代わると、コオロギ類の声も加わってすっかり秋の気配です。

彼岸の頃に咲くヒガンバナも園地では例年開花が早く、既に満開状態のところもありますが、川原では花茎が伸び、蕾が膨らみ始めた状態でした。

観察コースではマメ科の花が目立ちました。秋の七草に入っているハギ、クズのほか、堤防にはコマツナギ、アレチヌスビトハギ、ヤハズソウ、ツルマメの赤紫色の花、メドハギの小さなクリーム色の花、シロツメクサの白い集合花、また、公園にはアレチケツメイ、カワラケツメイ、ノアズキの黄色の花が咲いていました。カワラケツメイは草刈で消失したかと心配しましたが、10株ほどが確認できました。もくもくパラダイスには、この辺りでは珍しくなった在来のヌスビトハギとフジカンソウの花が見られました。



(ヒガンバナ満開：今年は早いかな?)

虫はというと、夏の名残のアブラゼミはまだ少数ですが姿がありました。秋になると山から戻ってくるアキアカネがないかと探しましたが、赤トンボの仲間は竹藪の縁でマユタテアカネのみ♀各1頭を見かけただけでした。来月になれば、アキアカネや渡りの途中のアサギマダラなど秋らしい虫が見られるでしょうか。（報告：齋竹）

### <その他観察できたもの>

虫：ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、ナミアゲハ、ナガサキアゲ、キタキチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ツマグロヒョウモン、ミドリヒョウモン、マダラバッタ、ショウリョウバッタ、トノサババッタ、コバネイナゴ、エンマコオロギ（声）、カネタタキ（声）

鳥：チョウゲンボウ、トビ、コゲラ、モズ、ヒヨドリ、キジバト、セグロセキレイ、スズメ、ムクドリ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ハシボソガラス、ウグイス（地鳴き）

花：キクイモ、アキノノゲシ、セイヨウタンポポ、ブタナ、ヒメジョオン、ヒロハホウキギク、キンミスヒキ、ブタクサ、オオブタクサ、ヒメムカシヨモギ、ゲンノショウコ、マメアサガオ、ホシアサガオ、マルバハコウ、オオニシキソウ、オオフトバムグラ、メリケンムグラ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、カタバミ、アメリカミズキンバイ、アオツツラフジ、ミノコウジュ、ミノソバ、ミスヒキ、ミノハギ、ツリガネニンジン、ヤブガラシ、センニンソウ、イノコヅチ、オオバコ、イヌホオズキ、アレチハナガサ、アメリカネナシカズラ、ツククサ、ヤブミョウガ、ニラ、ツルボ、ノカンソウ、ヤブラン



秋の七草のハギ（植栽）  
ツクシハギか？



フジカンソウの花  
巨大なヌスビトハギのよう



カワラケツメイ  
絶えずに残っていた



マユタテアカネ  
すじぶん数が減った感じ